様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年４月 23 日現在

機関番号：35404
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22530200
研究課題名（和文）近世中後期国益思想の展開

研究課題名（英文）
Deployment of the national interest thought in a modern middle and late period

研究代表者
落合　功（OCHIAI　KO）
広島修道大学商学部・教授
研究者番号：10309619

研究成果の概要（和文）：

本研究は、近世中後期に見られる国益思想について、歴史的意義を明らかにした。具体的には砂糖国産化に尽力した武蔵国川崎領大師河原村の名主池上幸豊を素材に、従来の五穀中心の増産思想＝封建思想から、甘蔗砂糖を始めとした商品作物育成を奨励する思想＝国益思想へと転換することを明らかにした。また、この国益思想を支えるネットワークとして、実学者、国学者、そして政治家の三つのグループが存在したことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

In our research, we show the historical significance of ideas about national interest seen in the middle and late period of the early modern ages. Specifically, we elucidate how Ikegami Yukitoyo, village headman of Daishikawara village in the Kawasaki territory of Musashi province, endeavored to produce sugarcane domestically, indicating a shift from feudalistic thought, which traditionally focused on increasing agricultural productivity of the five main staple crops, to a focus on national interests, planting sugar cane for the first time. We also outline the existence of three groups forming a network in support of nationalism: the Jitsugaku (pragmatics) scholars, the Kokugaku (Japanese philology) scholars, and the politicians.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	900,000	270,000	1,170,000
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学、経済学説・経済思想
キーワード：経済思想史

１．研究開始当初の背景

（１）　近世中後期に展開した国益思想については、自身がこれまでも注目してきたテーマである。たとえば、「近世砂糖業から見た幕府国産化政策の特質」（『社会文化史学』30、1993）では、近世中期ごろに国益という文言が散見され、砂糖の国産化が国益であることを明らかにしてきた。また、砂糖国産化の必要性についても「近世における砂糖貿易の展開と砂糖国産化」（『修道商学』42－1、2001）において、貿易問題から明らかにしている。さらに、池上太郎左衛門の取り組みについても、甘蔗砂糖のみならず氷砂糖の製作を素材にした「池上家の砂糖業の展開と氷砂糖」（『川崎市史研究』7、1996）がある。さらに池上幸豊の事績については、甘蔗砂糖、氷砂糖と新田開発などを含めたものとして、単著『近世の地域経済と商品流通ー江戸地廻り経済の展開ー』（2007、岩田書院）によって結実されている。これら一連の成果は、近世中期の砂糖国産化の問題としてとらえられてきたが、他に、地域社会の視点から近世後期の国益の論理と領主制的な論理との相剋を通じて明らかにした「十州休浜同盟の展開と芸備塩田－「生口浜増稼一件」を素材として－」（『ヒストリア』170、2000）を通じて、封建思想を検討するとともに近世中後期に見られ近代を展望できる国益思想の問題を正面から捉える必要が出てきた。

　また、かかるテーマについては、ドイツ・チュービンゲン大学、アメリカ・コロンビア大学での国際シンポジウムで報告を行い、研究に対する手ごたえを感じていた（この成果は「The shift to domestic sugar and the ideology of 'the national interests'」『Economic Thought in Early Modern Japan』2010,Brill Academic Publishers）。かかる点も成果として発表していくことが求められていたところである。

（２）　国益思想を展望する場合、どうしても近代以降への展望が求められる。そのキーワードは、たとえば、国権、国力、国富、国策など見ることができる。研究代表者は、『大久保利通－国権の道は経済から』（日本経済評論社、2008）を通じて、国権の問題として考える機会があったが、あくまでも大久保利通の生涯からのアプローチであり、かかる点を意識的に展望することが求められた。

２．研究の目的

（１）　封建思想が五穀を栽培し年貢を納めることを基調としたものとすれば、国益思想は商品作物を育成し、金納することを基調としたものである。かかる思想は、近代を展望するものとして大きな転換として見ることができるだろう。かかる国益思想のもつ意味を明らかにすることを目的としている。

（２）国益思想は今日まで生き続ける思想であるが、その内容は大きく変化している。また同様に国家の関係、さらには国権、国富、国策など多様な論理が展開されることになる。かかる点について、いくつか取り上げ、意味を明らかにし、近代を展望したい。

３．研究の方法

（１）　素材としては、武蔵国川崎領大師河原村（現川崎市）の名主池上幸豊（太郎左衛門）を素材として、彼の行動と思想の実証検討を行う。すなわち、池上幸豊が何故、代々伝わる新田開発から甘蔗砂糖製造へと事業を転換したか。甘蔗砂糖育成を支えた背景は何だったのか、具体的に明らかにし、国益思想の意義について迫る。

（２）　近代以降の経済思想を、史料・テーマに応じて検討を試みる。この点は、これまで検討してきた大久保利通の国権の問題などを中心に試みたい。

４．研究成果

（１）本研究は、近世中後期（18 世紀中ごろ以降）に見られるようになる国益思想について、その歴史的意義を明らかにすることを目的としている。具体的には砂糖国産化に尽力した武蔵国川崎領大師河原村の名主池上幸豊を素材に、従来の五穀中心の増産思想＝封建思想から、甘蔗砂糖を始めとした商品作物育成を奨励する思想＝国益思想へ転換することを明らかにし、さらに、この国益思想を支えるネットワークとして、田村藍水、平賀源内といった実学者、成島道筑などの国学者、そして田沼意次のような政治家の三つのグループとの身分を超えた交流があったことを明らかにした。

　さらに、近世においては、それまで明らかにしてきた、「十州休浜同盟の展開と芸備塩田」（前掲）や、近世後期に封建思想からの変質としてとらえられる休浜思想について、「一九世紀前半、瀬戸内塩田における休浜思想の特質ー増産思想から経営重視の思想へ－」（『日本経済思想史研究』４号、2004）を明らかにしたことについては、『近世瀬戸内塩業史の研究』（校倉書房、2010）で再編成するときに、内容を再整理することができた。

　また、近代以降の展望としては大久保利通

の行動を「公」と「民」との関係から理解するとともに、戦時期の国策などの思想から明らかにした。

（２）この間発表した成果は、５に示したように、雑誌論文５件、学会発表５件、図書５冊を提示しすることができた。著書（共著）については、内容すべてが同研究テーマに基づくものとは限らないが、本研究テーマを含みこんだものとして紹介している。以下、①池上幸豊の砂糖国産化を通じて明らかにしたもの。②封建思想から国益思想への展望を示し、検討したもの、③近代以降への展望という三つの視点からの研究成果が得られた。

以下、それらの発表の論文等に沿って成果を紹介していきたい。なお、５の主な発表論文等の項目があることから、発表論文等の記載については、論文課題のみとし、出典等については割愛した。

（３） 砂糖国産化と池上幸豊の関係については、「砂糖国産化と池上幸豊」で明らかにした。また、科学研究費採択以前の国際シンポジウムの成果であるが「The shift to domestic sugar and the ideology of 'the national interests'」として発表できた。そこでは、元禄期、享保改革期、宝暦・天明期それぞれの経済政策の変容と同一性を明らかにし、砂糖の輸入防遏から砂糖国産化の必要性が出され、その際の文言として国益が使われるようになったことを明らかにした。

また、それ以降、池上幸豊を支えるネットワークについて検討し、①甘蔗砂糖の育成など、実際の技術を紹介した田村藍水や平賀源内などの実学者の集まり、②国益思想を始めとした理論的な思想を紹介した成島道筑などの国学者の集まり、③実際の政策実現を支えた田沼意次などの政治家の集まりの三つのネットワークがあったことを明らかにした。この成果は、タリン大学（エストニア）において「A village headman's network and the ideology of "national interest"」として報告し、好評を得ることができた。その成果は翻訳され、『日米欧からみた近世日本の経済思想』の中に収録されている。

このように、池上幸豊は大師河原村の村役人でありながら、三つのネットワークに支えられて、甘蔗砂糖の育成と伝播を推進することができたのである。また、ネットワークの面から述べると、田沼意次は、井上寛司の取次を通じて池上幸豊の意向を反映している。その意味で、田沼政権が町人、村役人、学者など幅広い人的関係によって支えられていたことも明らかにした。（「近世中後期における村役人のネットワーク」『関東近世史研究論集３　幕政・藩政』）

（４）かかる国益思想の成立と並行して経営的な論理を主張する思想も見られるようになっている。この点については、休浜法の思想の問題から明らかにしてきている。すなわち、近世後期に瀬戸内塩田で推進された休浜法は単に塩を増産するだけではなく、利益（経営的論理）を念頭に据えた発想であるとし、その質的変化を明らかにした。
（「一九世紀前半、瀬戸内塩田における休浜思想の特質」『近世瀬戸内塩業史の研究』）このように、国益思想が展開するようになる近世中後期は、封建思想とは異なる思想が登場することを再確認した。他方、かかる国益思想などの登場によって封建思想は消えてなくなるのではなく、その後も存続しており、この封建思想と国益思想との地域での相剋を具体的に示したのが「十州休浜同盟の展開と芸備塩田」（『近世瀬戸内塩業史の研究』）である。

（５）近代以降の検討としては、「官」と「民」との関係を大久保利通の経済政策思想を明らかにすることで、官民一致の思想であることを明らかにしている。かかる視点は国益思想の問題とは性格を異にするものであるが、国民国家の位置づけを考え、近代を展望する上で重要であるといえるだろう（「大久保利通の経済政策思想－官と民の関係から考える－」）。また、戦時期に見られる国策について、広島沖海田湾沿岸の漁業組合と陸軍のバックアップで実施しようとする造船所建設との間での争論を通じて明らかにしている（「民からの『国策』論理」）。この場合、軍が主張する場合、漁業組合は国策として理解し容認するのだが、民間が主張する場合は、たとえ軍の肝煎りがあったとしても漁業組合は反発していることを明らかにしている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① <u>落合　功</u>「大久保利通の経済政策思想ー官と民の関係から考えるー」『日本経済思想史研究』、査読有、第 26 巻、2012、7－20
② <u>落合　功</u>「大陸進出構想の挫折と油谷湾開発事業」『山口県史研究』、査読無、第 20 号、2012、37－55
③ <u>落合　功</u>「瀬戸内塩田におけるネットワークと情報交換」『交通史研究』、査読有、第 76 号、2012、25－36
④ <u>落合　功</u>「A village headman's network and the ideology of "national interest"」『修道商学』、査読無、52 巻

-2 号、2012、221－227
⑤ 落合　功「砂糖国産化と池上幸豊」『和菓子』、査読無、18 号、2011、30－43

〔学会発表〕（計５件）

① 落合　功、「民からの『国策』論理」、日本経済思想史学会、2012 年 6 月 9 日、関西学院大学
② 落合　功、「A village headman's network and the ideology of "national interest"」2011 年 8 月 26 日、The 13th International Conference of EAJS、タリン大学(エストニア)
③ 落合　功「村役人のネットワークと国益思想」、中央史学会大会、2011 年 7 月 2 日、中央大学
④ 落合　功「瀬戸内塩田におけるネットワークと情報交換」、交通史研究会大会、2011 年 5 月 15 日、学習院大学
⑤ 落合　功「大久保利通の経済政策思想」、社会経済史学会大会、2011 年 5 月 5 日、立教大学

〔図書〕（計５件）

① 落合　功, 他、岩田書院、『日米欧からみた近世日本の経済思想』、2013、143－162
② 落合　功、日本経済評論社、『近代塩業と商品流通』、2012、367
③ 落合　功, 他、岩田書院、『関東近世史研究論集３　幕政・藩政』2012、391－408
④ 落合　功、校倉書房、『近世瀬戸内塩業史の研究』、2010、354
⑤ OCHIAI KO, 他、Brill Academic Publishers、『Economic Thought in Early Modern Japan』、2010、89－110

〔その他〕
ホームページ等

http://www.ochiai-lab.com/

６．研究組織
(1)研究代表者
落合　功（OCHIAI KO）
青山学院大学経済学部・教授
研究者番号：10309619